

「 さ さ え 」

2020年7月発行 情報誌 第72号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp

URL <http://npofukusiyougu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

NPO福祉用具ネットは『抱え上げない介護技術』を推進します。写真のような介護はやめましょう。



洗髪シャワー



NPO福祉用具ネット開発品第1号
【製造元】
(株)福祉SDグループ
平成27年より、充電式も販売開始。【発売元】キヨタ(株)

これまで、NPO福祉用具ネットが関わった
主な開発協力品 (現在は製造中止となっています。)



アルファブラ
ソラ クッション

SORA



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

福祉機器開発等支援事業から生まれる 新しい福祉用具（第4回）

NPO福祉用具ネット 副理事長 坂田 栄二

今回は、これまで説明した規制やリスクアセスメントが、実際の開発時にどのように係わってくるかを考えてみましょう。

透明なベッド柵安全カバーが欲しい

ある施設で、ニーズのヒアリング時に、「透明なベッド柵カバーが欲しい。」との要望がありました。

この要望のポイントは、既存の安全カバーを“透明化”することにあるようです。

そこで、どれだけニーズがあるのかを見極めるために他の施設でもヒアリングを続けてみました。

その結果、ベッド柵（サイドレール）を取付けることにより、次のようリスクが考えられ、しかも実際に事故は起きていました。

- ①入居者が就寝中の寝返り時に、ベッド柵に手や腕をぶつける。
 - ②柵の隙間に手足を差し込んで、ひどいときは骨折を起こすことがある。
- と言うものです。

また、このような事故が原因で皮膚に摩擦・ずれなどが生じ、外傷性創傷を与えてしまう（以下、スキンテアと言う）機会が、多いことも判りました。

スキンテアの実態調査を進めている「日本創傷・オストミー・失禁管理学会」から発表された論文（J. Jpn. WOCM. Vol. 19. No. 1, pp50~60, 2015）を見ると、スキンテア（簡単に言うと皮膚破れ）はどんな状況で発生しているかが判ります。

表8 テア発生時の状況（複数回答あり）（N=49）

発生状況	N	%
テープ剥離時	19	38.8
ベッド柵にぶつかった	7	14.3
転倒した	5	10.2
車椅子移動介助時の摩擦・ずれ	4	8.2
抑制帯による摩擦・ずれ	2	4.1
更衣時の摩擦・ずれ	2	4.1
車椅子にぶつかった	1	4.1
歩行器にぶつかった	1	2.0

この表8によると、具体的な発生しやすい状況は、

創膏をはがす時に、一緒に皮膚が取れてきた」

（38.8%）が最も多く、次いで「腕がベッド柵にぶつかって皮膚が裂けた。」（14.3%）などという通常の医療・介護環境の中で生じます。

（ここで少し本題を逸脱しますが、スキンテアの発生は、ベッドに体をぶつけたときだけでなく、車いす、歩行器など他の福祉用具にぶつけたときも多いことが判ります。まずは事故を招く恐れのある個所のリスクアセスメントを行い、安全保護対策を考えましょう。）

左右上肢のテア発生は差がない！

次に、体のどこにスキンテアが発生しているかを表9で見てみます。（出典は前記論文と同じ）

多い部位は**左右の上肢**で発生割合（32.7%・30.6%）は、ほぼ同じ。これに対し左右の下肢では、なぜか左右事故割合が異なります。（14.3%・8.2%）

表9 テア発生部位（N=49）

部位	N	%
左上肢	16	32.7
右上肢	15	30.6
左下肢	7	14.3
右下肢	4	8.2
頬部	4	8.2
背部	2	4.1
頸部	1	2.0

これらの結果は、私たちの知見とほぼ同じです。寝返り時に、脚よりも腕の方が大きく動かされるためでしょうか？腕のテア事故が多いようです。

このように、リスクがあるというよりも、現実の事



出典： <http://www.francebed.co.jp/anzen taisaku/target/sr-100.html>

故発生が明らかになっているため、多くの施設ではベッド柵に安全カバーを装着すべきと考えています。

ところが、ほとんどのベッドメーカーは既に品揃えして販売しているにもかかわらず、病院・施設では採用されておりません。なぜでしょうか。

ベッド柵は必要なもの

ヒアリングの結果をまとめてみますと、ベッド柵の効果は、次のとおりでした。

- ①転落、リネン類の落下防止のため。
 - ②柵の一部を握って起き上がり、立ち上がり補助のため。
- このように、ベッド柵の活用性は高いが、その一方でテア事故発生の原因になっております。

そこで施設等は、ベッド柵を使用することで「転落、リネン類の落下」を防ぎ、「立ち上がり」補助機能を発揮できるように、ベッドの足元側に取り付けているとのことでした。

現場を見てみた

案内された居室のベッドに本人の姿はありませんでしたが、そのベッドには安全カバーが施されていました。

よく見るとメーカー品のようなきれいな仕上がり感はありませんが頑丈に作られていることは判りました。どうも手作りのようです。

市販品は価格が高いこともあって、自衛策として手作りしているとのこと。

この手作り品は、例えば、ベッド柵にバスタオルを巻き付け、その上から手作りの布カバーで覆うタイプです。

また別の施設では、ベッド柵のパイプを柔らかいクッションチューブでカバーしていました。見た目にも安価に仕上がっています。



柔らかい配管保温チューブ

しかし、チューブ間の隙間が狭くなり、誤って腕が差し込まれたときに腕の抜き出しが出来なくなるリスクがあるとのこと。

また、柵のパイプをつかんで起き上がろうとすると、被覆しているチューブが回転してベッド上に倒れ込む

リスクがあります。自作をする際は、これらが原因となるリスク回避対策の確認が必要でしょう。

だから透明安全カバーが欲しい

テア事故を意識しすぎて安全カバーを取付けると、事故は防げますが、新たなリスクが生まれます。

左右上肢をベッド柵にぶつける事例の多さから、安全を重視して安全カバーでヘッドボード周りを囲い過ぎると、寝たきりの方は目の周りの周囲を遮られ、外の景色が見づらくなり、閉塞感が発生し孤立感を与えてしまう恐れがあります。

更に、風通しが悪く夏の暑さがひどくなることや身体拘束とみなされるリスクなど別の課題が出てきます。

そのような中で求められたのが透明性の高い安全カバーでした。

これまでの市販の安全カバーは、ベッド柵をすっぽり覆ってしまうため、介護者が要介護者の生活観察をしづらくなるのが指摘されておりました。

例えば、多忙な介護者が望んでいたことは、居室前を通過する際に、要介護者の様子を素早く観察したいためとのことでした。

もちろん透明感を高めることによって、要介護者にとっても閉塞感や孤立感は解消されるでしょう。

「透明化」に相応しい技術はあるのか

しかし、新たな課題も出てきます。

私たちは、要望を満足する透明化手段をいくつか提案してみました。

- ①安全カバーに部分的に透明窓を開ける。

最も思いつきやすい構造です。

大きめの孔をいくつかあけ、その孔をビニールのような柔らかい透明シートで閉鎖するもの。

しかし、風が通過できないこと、耐久性が低いことが指摘されました。

- ②孔サイズを小さくして、孔数を多くする。

ビニールシートは使わず、沢山の小さな穴をあける構造です。しかし、高齢者、特に認知症者は孔に指を突っ込むことがあり、指骨折の恐れがあるとのこと、この案も却下。

- ③安全カバーの側面をメッシュシートで覆う。



既によく似た構造のものが市販されています。しかし、要介護者の顔色などは見えません。(続)

新型コロナウイルス感染症拡大の中で面会中止

～患者家族の声～ 左 広美

昨年、別々の施設で暮らしていた両親。どちらもインフルエンザで1か月以上、面会が中止でした。一緒に暮らし始めた今冬も面会中止覚悟でいたものの逃れられており、このまま暖かい春を迎えられるかもしれないと期待していた1月ごろでした。一方で、その頃、ワイドショーでは「中国で新型コロナウイルス感染症が流行しはじめた」という話題が取り上げられはじめ、「時間の問題で日本でも流行するよなあ。すると、両親とはしばらく面会できなくなるのかなあ。」と、考えていました。そしてついに新型コロナウイルス感染症はパンデミックとなりインフルエンザの流行どころではない状況になってしまいました。

当然のこと、両親が入所している施設は2月の終わりに面会中止となりました。

1 面会中止の予感

実は、面会中止の予感がしていたので1月下旬ごろからは面会頻度をあげ、滞在時間を長くして少しでも一緒に過ごせるように努めました。

3年前に母が倒れる前、私はウクレレを始めたばかりでした。しばらく自分の趣味に時間を費やす時間が取れなくなっていました。しかし、昨秋やっと両親が同じ施設で暮らせるようになり心にゆとりができてウクレレを再開。今年のお正月に施設でウクレレ、ピアノ、バイオリンコンサートを開きました。そのような流れから、面会中止になる前には、音楽好きな父とはウクレレの弾き語りや触れ合い、母には好物のいなり寿司やチラシ寿司を差し入れしました。面会中止になるまでの1か月間は濃密な時間を過ごしていました。これが両親に会える最後になるかもしれないとか、認知症が進んでいる両親が私のことを忘れてしまうかもしれないというような気持ちで印象付け作戦をしていました。



2 仕方ないね、面会中止期間開始

そして予感的中！2月下旬から面会は中止となりました。施設の方は「申し訳ありません」と謝られるけれど、これは命を守るため仕方ないことだし、むしろ必要な対策です。

面会中止は段階を踏んで進められました。

～ロビーで短時間の面会～

まずは用事がある時という条件付きで短時間のロビーでの面会ができました。私は母の食欲が落ちていると聞き、いなり寿司とチラシ寿司、おやつ等の差し入れの為に面会をさせてもらいました。短時間とはいえ久しぶりの面会に母は「みんなは毎日、家族が来ているのに、うちだけは週に一回しか来てくれん。もう少し来てよお～。(涙)」と半べそ。そしてギュッと抱きしめてほしいと要求してきました。元気な頃は娘に会いに来て欲しいなんて意地を張って絶対に言わなかった母が、自分の気持ちを正直に表現してくれました。「ああ、私はお母さんに頼りにされている。」と嬉しかったひと時でもありました。



～ガラス越しの面会～

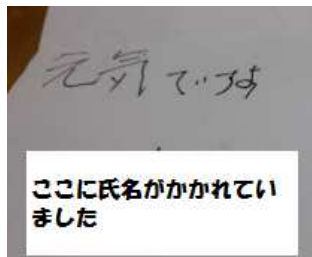
対面での面会は完全中止となり、次はガラス越しの面会となりました。視覚障害がある母と、首が固くなかなか正面を見られない父。ガラス越しの面会には限界があるだろうなあとは半ばあきらめながらも、施設に用事があるついでに顔を見せてもらいました。1回目、母は調子が良くガラス越しに手をふって「そんな所におらんで入ってこんかね。」と言っていました。父はスタッフさんの「娘さんがおいでになりましたよ」という言葉に泣き出しました。二人が喜び元気な様子にうれしかったです。

2回目は無反応でちょっとがっかりしたものの、これも両親の人生的一幕、顔を見るのができて良かった。親が県外に住んでいる人は県をまたいでの往来ができず、顔を見ることもできないような非常事態下です。「～できない」と思うよりも「～できて良かった。」と思うことが面会中止期間の気持ちの置きどころとしま

した。

3 繋がる！家族としてできること

～忘れないでね作戦～



面会中止中、「家族として何ができるのだろうか」と考えました。母は気落ちしてしまうのではないかと、両親とも認知症が進み私たちの

ことがわからなくなるのではないかと心配しました。そこで、「忘れないでね作戦」として、週に1～2回、私たち夫婦の写真付きハガキを出すことにしました。

両親はいつも夫婦仲良く健康であることを望んでいたのです。出だしは「お父さん、お母さん元気ですか。〇と〇夫婦は仲良く元気で～す。」というお決まり文句で始まり、あとは写真の思い出話を短く書いて投函しました。このハガキをきっかけにスタッフさんと両親の会話の糸口が見つかるといいなあという願いも込めていました。すると月一回の施設からの介護報告の手紙にファイリングしてもらったハガキを指さしながら見つめている母の写真が入っていました。家族の思いがスタッフさんにしっかり伝わり大事にしてもらえているという嬉しさと安心感を覚えました。そして、なんと！！母からハガキへの返事が届きました。「元気ですよ」と書かれその下にフルネームで名前が書かれていました。期待していなかっただけにとても感激しました。そしてハガキを介してスタッフの皆さんと母とのやり取りが想像でき、大事にして頂けている安心感



がさらに増しました。ちなみに、作成したハガキはまだ送っていないものも含めて28通！！当初は毎回、夫婦仲良くツーショットを撮影。仲良さをアピールするのに吹き出し大笑いしたり、夫のお姉さんも巻き込んでみたり、昔懐かしい両親との思い出写真、しまいにはネタがなくなり大昔の写真まで引っ張り出して作りました。両親のことを思い浮かべながらのハガキ作成は、私のメンタルにとっても良いひと時となりました。面会できない親のことを心配したり、不安にな

ったりしつつもマインドフルネスの時間を過ごせたと感じます。

～マスクづくり作戦～



感染症が流行し始めて、世間ではマスク不足で大騒ぎとなっていました。そこで「無いのなら咳エチケット対策として作っちゃえ！」ということで、せっせとマスクを作り始めました。StayHome で外に出られないから、このエネルギーを施設のスタッフの皆さん分のマスクづくりに向けようと張り切りました。ちょうどこの頃、施設長と電話でお話しをする機会がありました。なんとなくマスクが足りているのかなあという話題を振ったところ、「幸いマスクは足りてて、さらに国から布マスクが支給されたので助かった。」とのこと。「あっちゃ～！」と、思ったもののマスクはせっせと作りました。スタッフの皆さんへのプレゼントです。けれど、足りているという言葉に安心して、困っている人にお裾分けを続けており、なかなかスタッフ人数分が揃わないうちにミシンが壊れ・・・。新しくミシンを注文中！

スタッフの顔を一人一人思い浮かべながらのマスクづくりは良い時間です。最前線で頑張ってくれている施設の皆さんに感謝の気持ちを言葉や態度で示したい、そのような思いになりました。新しいミシンが来たら再開します！

4 うれしい、面会再会

施設からは週に一回、電話で近況報告の電話があります。家族はこういった配慮に安心感を覚え信頼感を深めることができています。

そしてついに「今日は、うれしいお知らせがあります。」と言われ、6月1日月曜日、面会再会となりました。「うれしいお知らせ」という言葉を使われたとき、私の気持ちをよく理解してくれているなあ、こうして感情を言葉にして表してもらえると嬉しいなあと思いました。さすが対人援助をお仕事としている人だなあと感じるとともに、そのような何気ない発言の中に施設の運営方針が垣間見えてきたように感じます。

ロビーで5分間だけの再開。これでもとてもありがたかったです。さっそく、1日の夕方、介護休暇を申請して会いに行きました。父は喜んでくれたと思います。つないだ私の手をギュッと握り返してくれたり、「うー！」と大きな声をあげ、力強く振りほどこうとしました。元気なころの父がよく冗談交じりにしていた仕事草です。

一方、母はこの日は眠り姫の日で車いすにチョココンと小さく取まったままこちらからの呼びかけに「はい。」と1回だけ返事をするのが精いっぱい。つい先日、施設から送られてきたお頼りにはニッコリ微笑んでいる母の写真があったし、「〇〇ちゃんのお寿司はやっぱりおいしい」とお話しされていましたと、書かれていたのになあ……。家族はついついこういった生活の一片を親の生活全般ととらえがちになってしまいます。分かってはいるけどつい「いつもこんなですか……」などと聞きたくなるものです。再会1回目の面会は生活の一片にとらわれそうになり「トホホ……」と言いたくなるような気分で帰路につきました。

その週の日曜日に二回目の面会！！施設までの40分の道中、わくわくドキドキ。

今回の母の生活の一片は「お目覚めお喋りモード」でした。良かった！「仕事に行く時間があるのならもっと、会いに来てほしい」と言われました。父は「男は黙って耐え忍ぶ」なのか、ちょっと泣いただけであとは黙っておりました。いつものように、母にチラシ寿司といなり寿司を作って保冷バッグに入れて手渡しました。食欲にムラがある母は、こういった時は「じゃ、食べようっかね」と食べるモードに入ってくれるので張り合いがあります。帰路に就くとき、スタッフさんに付き添われて屋外まで見送りに来てくれた母。私たちが「お父さ～ん。お母さ～ん。また来るねえ。」と、車中から手を振ると遠くにいる母はすでにいなり寿司モードに！保冷バッグをあげようと頑張っていました！それでいいのだ！良かったなあと夫とニコニコ笑顔になって帰宅できました。こんな日は「ああ、良かったね。」を連発しながらの帰路になります。



家族としてはこんな大変な状況下で両親のことを引き受けてくださりありがたい限りです。もしも、弱っている両親を在宅介護していたら、私は仕事を長期休暇するか辞めざるを得なかったろうなと考えました。さらに自分が感染して両親に感染してしまうのではないかと緊張の日々であったらうなとか、色々なことを考えました。世間ではStayHomeや在宅ワークの推進

といわれている最中、介護のお仕事はそれができない職種のひとつです。自分が感染して入所者にうつさないようにとかいろいろと気を使われ、緊張の毎日だと思います。両親と面会ができない間、そんなことを考えていました。

5 面会中止期間中に学んだこと

私は今回の面会中止でいくつか学んだことがあります。

① その時々を大切に向き合う

新型コロナウイルスが流行しなくても、人の命はいつなるとき何があるかわからず「これが最後かもしれない」という思いで、その時々を大切に向き合うことが大事と聞いてはいたものの、今回は実感できました。

② 施設の方々への感謝

介護の最前線で毎日、頑張ってくれる人がいるから両親は生きられていること、おかげで私たち家族は仕事を諦めずに働き、生活することができていること。本当にありがたいです。

③ 両親の生活の一片を全てと思わないこと

私は「もしも」という考えに支配されあれこれ考えすぎネガティブ思考になりがちです。目の前で見えている両親の姿は生活の一片であり、私が見えていないことが大部分であること。日頃のスタッフの皆さんのちょっとした心遣いが私に安心感をもたらせてくれていること。改めて信頼関係の大切さを学びました。

④ 自分時間を忘れない

マスクづくりやハガキづくりに没頭している間は実は、自分時間でもありました。「マスクを差し上げたい」「ハガキを出して両親に喜んでもらいたい」そう思っ取り組みました。そう思った主語は「私」自身です。私がこうしたいからその活動に没頭するという自分時間が面会中止期間中の私の不安を軽減してくれました。

⑤ 家族への感謝

最後に家族への感謝の心を伝えることです。3年以上続いている介護生活に欠かせない存在が夫です。写真を撮るぞと言えば一緒に笑顔になってくれ、マスクづくりをすれば布をカットしてくれたり、施設訪問をするときには「お袋が喜ぶから一緒に行こうか」と同伴してくれます。一人ではなんとなく心細い時に、一緒に行動してくれる家族への感謝を言葉でしっかりと伝えることができるようになりました。

新型コロナウイルス感染症対策で世の中は新しい生活様式に慣れようとしています。患者家族の私も新しい患者家族の生活様式を手に入れることができたのかああとと思います。ピンチはチャンスで少し成長できたかな～。と思う今日この頃です。

介護、医療現場で頑張ってくださいっている皆さん、ありがとうございます。

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業がスタート

NPO 福祉用具ネット事務局長 大山美智江

新型コロナウイルスの影響で、4月から延期となっていた福岡県ノーリフティングケア普及促進事業が、6月5日に福岡県庁ホームページに事業の詳細が公表され、本格的に動き始めることになりました。

私たちは、先が見えない中、講師を引き受けていただいている4人とWeb会議やメール、電話等でたくさん時間をかけて準備をしてきました。

一方では、介護の現場の方にも職場における具体的なコロナ対策の現状も教えていただきました。

研修を受けられる体制の確認をさまざまな角度から模索してきました。そして、福岡県の令和2年度の事業として、この現状の中で結果を残すために、私たちには時間的な面からも決断の時期が迫っていたのでした。

そんな様々な背景と条件の中で、私たちはオンライン研修という新たな手法で進むことに致しました。

この事業の概要は、大きく分けて3つのことを企画しています。

一つは、管理者や職場のリーダーの皆様を対象にしたノーリフティングケア導入研修会です。

職場にノーリフティングケアを導入するためには、組織として取り組むことが重要です。

二つ目は、モデル施設をつくること。地域の中で先行して取り組む意欲のある施設を公募し、職場への導入に向けての支援を行う事。これは、今回のノーリフティングケア普及促進事業の大きなポイントです。職場での体制づくりと実践に向けた具体的な取り組みの全面的なサポートをすること。

つまり、マネジメントと実技の教育を中心に行う事になります。

そのマネジメント研修は、福岡地域、北九州地域、筑豊地域、筑後地域の4つの地域に分かれての研修会となります。

年度末には取り組んだ成果の報告会を開催することになります。

まずは、地域のリーダーになっていただくモデル施設の決定。公募からスタートしました。

尚、本事業の計画に際しては、高知県のナチュラルハートフルケアネットワークの下元佳子氏の多大なご支援を賜り、今日に至ったこと、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 担当講師紹介

櫻木 美穂子 氏 福祉用具プラザ北九州 (一社)ナチュラルハートフルケア ネットワーク福岡 代表	作業療法士
白石 源成 氏 社会福祉法人ひさの里 特別養護 老人ホーム ふじの木園 (一社) ナチュラルハートフルケ アネットワーク福岡 理事	作業療法士
安武 哲宏 氏 (一社)ナチュラルハートフルケ アネットワーク	作業療法士
山形 茂生 氏 コネクトリハビリテーション代表 NPO 福祉用具ネット 理事	作業療法士

*講師の皆様には、事前の企画段階から共に携わっていただき進めています。

令和2年度通常総会のご報告

今年の総会は、新型コロナウイルスの影響で、3密を避けるためにWeb総会を開催いたしました。

日時 2020年5月30日14時~14時45分

会場 NPO福祉用具ネット事務局内

出席者 会員数129のうち、委任状含む出席者105
(Web参加含む出席者11名)

事前に参加者の皆様には資料を送付し、総会では質疑応答を中心に審議をしていただきました。

◆審議事項は、事前に通知した通り、以下の3点について協議。

- ①2019年度 事業報告・決算報告・監査報告
- ②2020年度 事業計画案・予算案
- ③任期満了に伴う役員の改選について

議長には、西村静子理事が選任され、審議していただき、上記の審議事項は参加者全員の承認を得たことを確認いたしました。

尚、事業報告書、決算報告書等は、福岡県NPOセンターへ提出も完了。本NPOのホームページ活動実績コーナーにもアップしています。

事務局だより

令和2年3月追加

- 3月12日 事例支援
 - 3月17日 事例支援 開発相談
 - 3月18日 開発品の検証のための施設訪問
福岡県事業 研修会場の諸手続き
 - 3月20日 事例支援
 - 3月22日 事例支援
 - 3月24日 事例支援
 - 3月25日 事例支援
 - 3月26日 福岡県庁訪問
 - 3月27日 事例支援
- 決算業務・事業報告書まとめ**
事業計画書作成及び予算案作成
ノーリフティングケア普及促進事業の企画・調整
情報誌ささえ71号 編集・校正・印刷・発送

〈令和2年4月から6月までの事務局のうごき〉

令和2年4月

- 4月1日 税理士との打ち合わせ
開発品の検証結果の取り纏め
開発相談 事例支援
- 4月2日 委託事業の打ち合わせ
- 4月3日 委託契約締結
事例支援2件
ささえ発送 総会案内発送
福岡県事業延期打ち合わせ
- 4月5日 事例支援
- 4月6日 事例支援
- 4月8日 福岡県庁訪問
- 4月11日 事例支援
- 4月13日 税理士との打ち合わせ
- 4月15日 事例支援
- 4月16日 田川市役所税務手続き
事務局に除菌装置設置
- 4月17日 事例支援
- 4月18日 理事会 ウェブ会議
- 4月20日 事例支援
- 4月23日 事例支援
- 4月26日 事例支援
- 4月27日 開発支援 福岡
- 4月28日 事例支援
- 4月30日 開発支援

令和2年5月

- 5月3日 事例支援
- 5月4日 事例支援
- 5月6日 事例支援
- 5月7日 事例支援
- 5月8日 開発相談 Web 会議
- 5月9日 事例支援 Web 会議

- 5月13日 事例支援
開発相談 Web 会議
会計監査
- 5月14日 開発相談
- 5月15日・16日 事例支援
- 5月18日 事例支援
開発相談
- 5月19日 開発相談 事業の打ち合わせ
- 5月20日 介護現場のヒヤリング
- 5月21日 オンライン研修への修正
- 5月22日 開発相談 10月研修会場予約
- 5月23日 福岡県事業 Web 会議
- 5月25日 開発相談2件 Web 会議
- 5月26日 開発相談 Web
- 5月27日 開発相談2件 Web 会議
Web 会議 福岡県事業打ち合わせ
- 5月29日 事例支援
- 5月30日 総会

令和2年6月

- 情報誌72号発行の準備
- 6月1日 開発会議 Web 会議
NPOセンター事業報告
- 6月2日 事例支援
- 6月3日 開発相談
- 6月5日 開発会議 Web 会議
- 6月4日 事業の打ち合わせ 公募案内準備
- 6月5日 福岡県事業公開 公募案内発送準備
ホームページ更新
- 6月7日 発送準備 事例支援
- 6月8日 発送 事例支援
- 6月9日 開発会議 福岡 事例支援
- 6月10日 開発支援
- 6月13日 web 会議 福岡県事業
- 6月25日 開発会議 Web 会議

情報誌ささえ72号発送の準備

福岡県ノーリフティングケア委託事業スタート

3月から延期していた第3回技術認定チェック及び今年度に予定している研修会は、7月1日現在も延期しています。今後、開催が可能になりましたら、改めてホームページやフェイスブック等でご案内させていただきます。

令和2年度の新規の会員を募集しています。また、令和2年度の会費が未納になっている会員の皆様は更新手続きをお願いいたします。

NPO 福祉用具ネットの事業年度は、4月1日～翌年3月31日までです。
今後も引き続きご支援をお願い致します。